

公益社団法人だて青年会議所 2017年度理事長所信（案）

公益社団法人だて青年会議所

37代理事長 阿部 真吾

スローガン

「青雲の志」

～だての未来を切り拓く人材となれ～

【はじめに】

1981年、「だてはひとつ」を基本理念として「保原青年会議所」が発足されました。それから長い年月の中で様々な時代の変化に対応しながら、現在は「公益社団法人だて青年会議所」として創立から37年目を迎えます。

2017年は、東日本大震災から7年目を迎える年となり、我々の活動エリアでも復興に向けて様々な計画が進められています。伊達市では震災からの真の復興として「再生・発展まちづくりグランドデザイン」が掲げられ、公・民・コミュニティ協働のまちづくりに向けて10年先、20年先の将来像と戦略を定めた取り組みが進められています。国見町では「発見・発信・発展できる道の駅」として復興へ向けた新たな交流の場、道の駅「あつかしの郷」がオープンを迎え、中には受験勉強学習法や社会人のマナー教室など若い世代を呼び込む学習施設の開設も予定しており、賑わいの創出に期待が高まっています。桑折町では昨年3月に「桑折町歴史的風致維持向上計画」が国の認定を受け、先人から受け継いできた桑折町の「良さ」・「らしさ」を次世代へ引き継ぐために、今後10年間の計画で歴史的風致の維持・向上を図りながら桑折町全体の活性化が進められています。更には、東北自動車道と常磐自動車道を結ぶ「相馬福島道路」の開通も進められており、震災からの早期復興を図るリーディングプロジェクト（復興支援道路）として様々な分野での活用が期待されています。

我々青年会議所は、加速度的に進むこれらの変化に迅速に対応し、更なる地域の発展に尽力していかなければなりません。その為にも「青雲の志」で自らを高め、だての未来を切り拓く人材となるよう努めて参ります。

【第47回福島ブロック大会 主管LOMとして】

2017年、だて青年会議所は「第47回福島ブロック大会 in だて」として主管LOMを担います。県内各地から数多くの同志が相集いブロック大会の意義を心に刻み、交流・親睦を深めながらだて青年会議所の強みを活かした実り多い大会を実現します。その為に、活動エリアである伊達市・国見町・桑折町の市民や行政とも連携し共に地域をプロモーションしながらそれぞれの魅力を最大限に活かした発信を行うと共に、何をしたいかを事業にするよりもリソース（資源）から何をすべきかを考え、自立した魅力溢れる地域を創造して参ります。また、だて地域の市民においても青年会議所運動への認識を深めてもらう機会とし、我々メンバーにおいては明るい豊かな社会の実現に向けて有意義な場にすると同時に、5年後10年後を見据えただての未来を切り拓く新たな事業展開への一歩といたします。福島ブロック協議会最大の発信の場であるブロック大会がこのだての地で行われる意義をメンバーそれぞれが心に刻み、一丸となって大会を構築して参ります。

【地域と協働したまちづくり】

まちづくりとは暮らしを創ること。それに関わる全ての人々による豊かな暮らしの創造にあります。そして、このだて地域に明るい未来を描くには市民の意識変革が必要です。それには私たち一人ひとりが地域に存在感を示せるオピニオンリーダーとなり、地域のニーズを吸い上げ、子供から大人まで多くの人を巻き込んで地域から愛される事業を創り上げ、まちが持続的な活性化へと向かう機会を創出しなければなりません。その中には「決して変えてはならないもの」と「状況に応じて変えなければならないもの」があります。つまり、世の中がどんなに変化しようとも変わらず受け継ぐべきものをしっかりと見極めてこそ、変革を主導する団体となることが出来ます。その為にも行政や各諸団体とまちづくりに対する意見や情報を交換し、地域の運動として協働した取り組みを実践していきます。青年会議所とは、地域のあらゆる課題を分析し、それをもとに企画立案して事業を行い、その結果を検証してまた新たな事業へ取り組む唯一無二の団体です。我々がこれまで創り上げてきたものを市民から継続して必要とされる為に、時代の変化に対応しながら常にそこから進化させていくことがだての未来を切り拓く鍵となります。

【だての未来を担う青少年の育成】

これからの教育は「ゆとり」でも「詰め込み」でもない、次代を担う子供たちが変化の激しいこれからの社会を生きる為に、確かな学力、豊かな心、健やかな体の「知・徳・体」のバランスが取れた「生きる力」を育むことが現在の学習指導要項の理念とされています。特に「豊かな心」においては地域との関わりや家庭の中でのコミュニケーションが大きく影響すると考えています。親世代である我々JAYCEEが子供たちを見守る地域の大人として地域や家庭など社会全体で手を差し伸べられるような意識変革に取り組まなければなりません。また、子供たちが成長してもふるさとに心を寄せる郷土愛を育む為に地域の

魅力に触れ人のつながりを感じ、ふるさとに誇りを持つ機会を創出して参ります。そして、夢や志に向かってチャレンジする自立の心、地域や家族を大切にする感謝の心、相手の立場に立って考えることができる思いやりの心を持った「豊かな心」を兼ね備えた、だての未来を切り拓くことが出来る青少年の育成に取り組んで参ります。すべては子供たちの未来の為に。

【LOMの根幹として】

青年会議所は毎年役職が変わるという単年度制を導入しており、その役職において様々な経験を積むことができます。だて青年会議所が組織として大きな成果を上げるには、メンバーそれぞれが組織を構成する一人として常に「組織を通じていかに貢献していくか」を考えることが必要です。事業を通して成果を上げている人はみな、成果を上げる力を努力して身につけてきています。その方法は習得できるものであり青年会議所のひとりとして習得しなければならないものでもあります。また、優れた仕事をしている人を真似ることは成長への近道であり、優れたイミテーションを積み重ねた先に優れたイノベーション、つまり自分自身の「やり方」を生み出すことが出来ます。凡を極めて非凡に至る、良い習慣は時として才能をも超え組織に大きな影響を与えることに繋がります。

また、力強い組織には守るべき規律があり、規律を乱せば組織を弱体化へと導きます。自らが規律正しくあることはJCとしての価値を高め、地域に認められ必要とされる団体となるでしょう。「すべての変革の源流は我にあり」まずは自らを律し、高い志を持った会員による組織づくりを進めて参ります。

【終わりに】

作家、森村誠一の著書「座右の銘」に、「実りある人生とは多くの人間と関わり合うことによって達成される」とあります。だて青年会議所の強みは創立から37年という歴史の中で、様々な事業を通して多くの市民や子供たち、学生や地域の諸団体、あるいは行政との関わり合いの中で構築されてきた強い信頼関係にあると確信しています。私たちの目的である「明るい豊かな社会の実現」には、そこに住み暮らす私たちがそうした実り多き人生を送ることにあるのではないのでしょうか。組織の中でも周囲と調和していくことが重要です。「和を以て貴しとなす」を会議運営の基本とし、互いの考えを尊重し合い、間違いは間違い、正しいことは正しいと素直に認められるような議論を重ねていくことこそが「和」であり、それを積み重ねることで相互に成長し我々の運動を通して地域に還元していくことが出来るものと考えています。また「明るい豊かな社会の実現」を目的とする我々は、常に物事の軽重を考え陰徳を積み、他を慮る大人の背中を伝播していくことで地域に対して説得力と実行力を兼ね備えた団体へと進化していきます。かけがえのないふるさと「だて」の未来を切り拓き次世代へ思いを繋いでいく為に、私たちは「青雲の志」で真摯に取り組んで参ります。

